

2020年
263号
4月22日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
(越労連内)
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

**『三密』を守り、外出自粛で
新型コロナウイルスは
必ず克服できる**

現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっている。報道の最初は昨年12月31日、死者の報道は1月20日が最初だったと思う。1月30日までは中国・武漢の話題が多く、その後は急速にヨーロッパ各地から世界中に広がった。感染者数は世界で200万人・死者15万人を超え、国内の感染者数も一万人を超えて、現在も増加中である。

マスコミ報道は「人類史始まって以来」であるかのよう。治療方法も治療薬もまだなく、いつになったら有効な治療ができるかのメドも一切不明。見方によっては「恐怖を煽る」印象があった。社会全体が国内だけでなく、患者数の多いヨーロッパ・アメリカを含め「対策なし」の印象。

世情言われて「三密」（換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・身近で会話などを密着する密着場面）を避け、外出自粛で、手洗い・マスクなどの対策を徹底しようではありませんか。

そういう行動で感染を少しでも減らすことができると思います。

自粛要請と補償は一体です。そして緊急事態宣言の対応は、それに伴う休業などによる損失を全面的に補償することが不可欠です。

世界史で感染症との戦いを少し振り返ってみると、紀元前からのマラリア、13世紀のハンセン病、14世紀のペスト、16世紀の梅毒、17、18世紀の天然痘、19世紀のコレラ・結核、20世紀以降のインフルエンザ・エイズ・サース・マーズ。これらが全て克服できたわけではありませんが、「新型コロナウイルス」ほどの騒ぎが、一定に「押さえ込み」ができていないで、ウイルスとそれを追いかけるのではないでしようか。

てきた人類の歴史は数多くあり、人類はそれなりにウイルスを克服してきました。克服できないまでも押さえ込んできたと思えます。「必ず克服できる！」という希望をもって頑張りましょう！
(越谷支部・執行委員会)

キッチンペーパーと輪ゴムで ホチキスで作る「簡易マスク」

昨今はマスクをつけていないと状況になっても自粛しなければならぬ状況になってきました。ではマスクを買おうとしてもどこにも売っていません。そこでパソコンクラブでは例年の時に人が集まらなかつた事もあり、マスクの販売状況はどうなっているか、手製のマスクの作り方はどうすればいいかという事をインターネットで検索して調べてみました。すると、最初にヒットしたのがこの記事でした。「簡易マスク」なのでどこまで効果があるかはわかりませんが、買物に行くとき等全くマスクを付けないよりは心理的な負担が少なくなるのではないでしようか。よろしければお試しください。(パソコンクラブ)

警視庁災害対策課が考案!

簡易マスクの作り方

- 1 キッチンペーパーを切れ目に沿って破り、幅1.5cmで蛇腹折りにする
- 2 折ったキッチンペーパーの両端に輪ゴムを当てて、ホチキスで止める
- 3 折ったキッチンペーパーを広げ、両端の輪ゴムを耳にかける。
- 4 人によって顔の大きさが違うので、輪ゴムを止める位置で調整する



画像は警視庁災害対策課災害警備係(大規模災害対策)のツイッターより引用

点 睛

**多くの女性をいっぺん
低・無年金にするのか?**

年金者組合が全国で行っている年金裁判は今、重要な局面をむかえています。この裁判は、2012年に国が強行した年金2・5%一律削減は、憲法違反で不当であるとし、その取り消しを求めたものです。裁判の中で、2018年12月、女性の無年金・低年金の実態、その改善方向を主張した文書(準備書面13)が、裁判所に提出されました。

全日本年金者組合は昨年7月、「女性の年金はなぜ低い」と題するパンフレットを発行しました。このパンフレットは、2019年に開催された年金裁判報告集会での「準備書面13」をふまえた今野久子弁護士とのミニ講演「女性はなぜ低年金・無年金か?」をきっかけに作成されました。パンフレットには講演記録に加え、全日本年金者組合の森口藤子元副委員長の意見書、全国で裁判をたたかう10人の体験談が収録されています。少なくない女性はなぜ無年金・低年金になるのか、パンフレットは重要な指摘をしています。

一つは、家事、育児の大半を女性が専業主婦として担ってきた事が、厚生年金受給資格から除外され、支給額が少ない国民年金加入者が多いことです。二つ目は正規の男性労働者と同じ厚生年金受給者でも雇用における男女格差、賃金格差により、年金支給額に大きな格差が生じていることです。

こうした問題は世界経済フォーラムのジェンダー格差ランキングで、日本は153国中121位と過去最低を低迷していることとも関わりがあります。

女性の年金問題は日本社会のゆがみの象徴となつています。そして私たちの回りの多くの女性は低年金のもとで、今でも厳しい生活を余儀なくされています。このパンフレットの発行と活用をきっかけにして、女性の年金問題とくらしをめぐる日本社会のあり方について、年金者組合としても向き合える機会ができればいいと思います。
(吉田正美)

『三密』を守り、外出自粛で新型コロナウイルスを克服しよう!